

4

人口の将来展望

(1) めざすべき人口の方向

① 人口減少の主たる要因

【自然動態（自然減）】

- 20 歳代を中心に、40 歳代前半までの女性が社会移動により減少しています。その結果出産数も減少しています。
 - ・結婚や住み替えを理由に、愛西市などの近接市町に転出している人が多くなっています。
 - ・津島市の子育て環境に対するマイナスイメージが転出要因の一つになっていると考えられます。
- 希望する子どもの数だけ出産していません。
 - ・経済的な負担と肉体的・精神的な負担を不安に感じています。
 - ・津島市は愛西市と並んで、人口一人当たりの家計所得が周辺都市に比べて低くなっています。
- 未婚率が上昇しています。特に30～40 歳代の男性の単独世帯が急増しています。
 - ・未婚理由は、「適当な相手に巡り会わない」と「経済的不安がある」が主な理由となっています。特に男性は「経済的不安がある」が大きくなっています。

【社会動態（社会減）】

- 隣接都市との間で転出超過となっています。
 - ・中でも、愛西市との間で転出超過が突出して大きくなっています。

② 人口減少対策の可能性

【純移動率の改善】

- 子育て環境の魅力を高め、女性の転出を抑制することによって、隣接都市との間の転出超過を減らし、マイナスの純移動率を改善させることが可能となります。

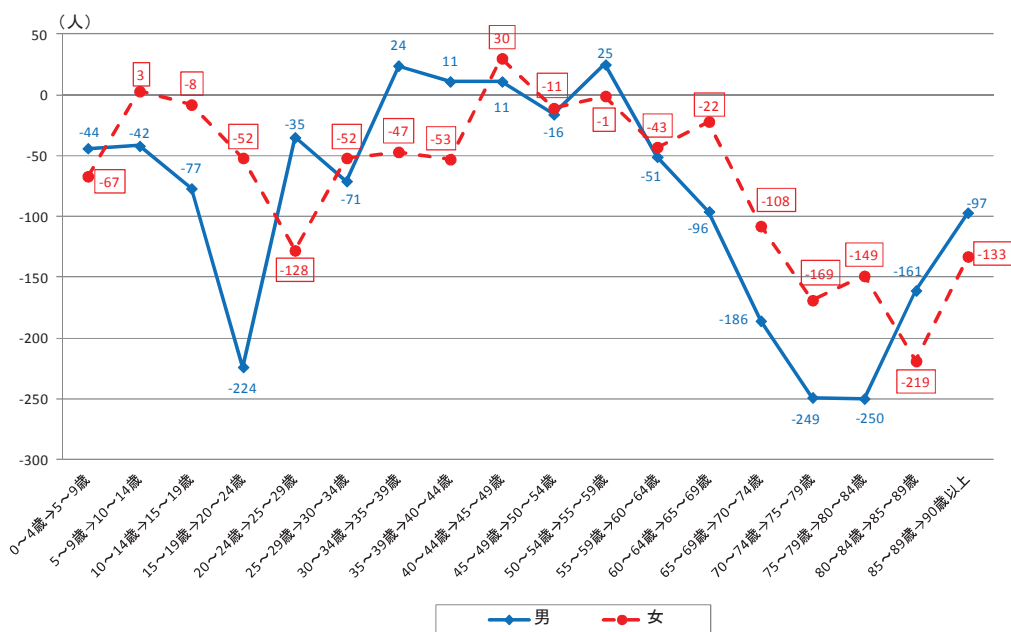
【女性の転出抑制による出生率のアップ】

- 30 歳前半の女性を中心に、女性の転出を抑制させることで、出生数を高めることが可能となります。

図表 4-1 男女別年齢階級別人口の増減数（平成 17 年⇒平成 22 年）

- ・「20～24 歳→25～29 歳」の▲128 人をはじめ、「25～29 歳→30～34 歳」が▲52 人、「30～34 歳→35～39 歳」が▲47 人、「35～39 歳→40～44 歳」が▲53 人というように、子どもを産み育てる時期の女性の転出が大きいことが特徴です。
- ・これら世代の女性の転出を抑制していくことで、出生数を増やすことが可能になると考えられます。

【男女別年齢階級別人口の増減数（平成 17 年⇒平成 22 年）】



(2) 人口の将来展望

① 人口ビジョンの目標

転出超過となっている 20～30 歳代の子育て世代の転出を重点的に抑制することにより、その年齢層の純移動率のマイナスを解消し、全体として社会増を目指すとともに、子どもの数を増やします。

② 人口の将来展望

将来の人口を次のように設定します。

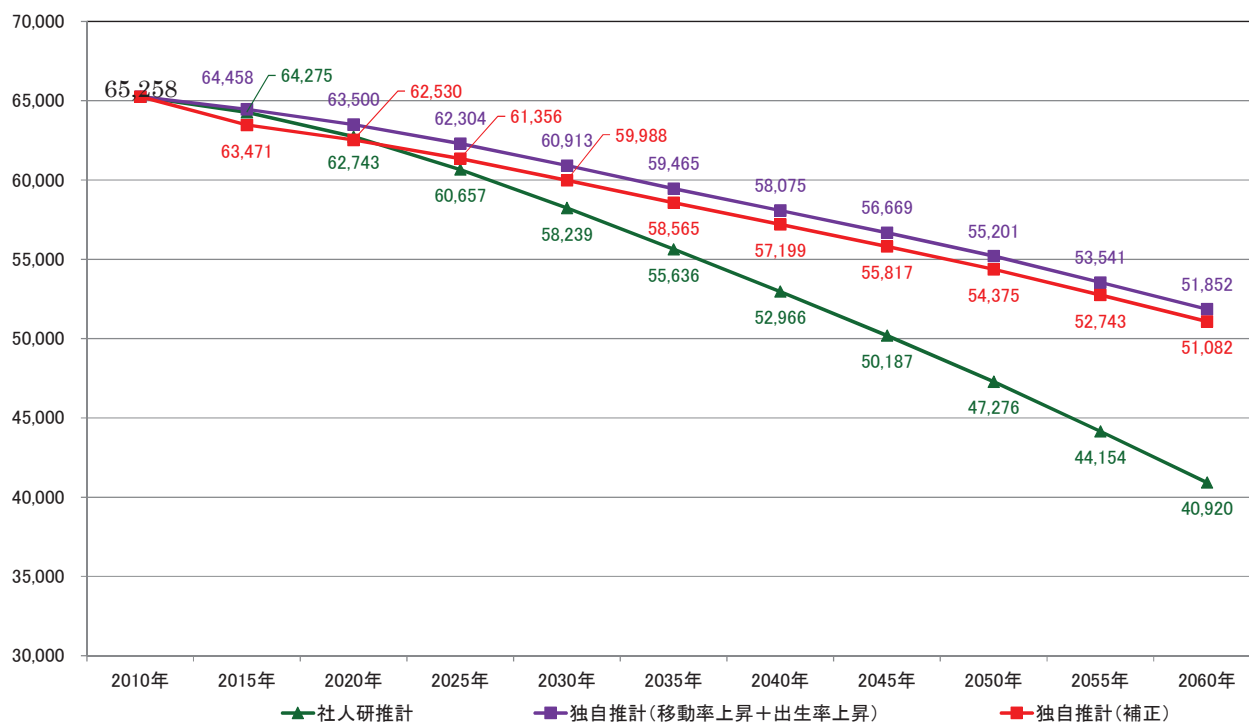
【純移動率】

○現在マイナスとなっている年齢層の純移動率を半減させ、平成 32 年（2020 年）以降には均衡させる（マイナスを 0 とする）ものとします。純移動率がプラスの年齢層はその率をそのまま維持し、全体としては社会増になるものとします。

【合計特殊出生率の目標】

○平成 22 年（2010 年）の 1.38^{*1}から、平成 42 年（2030 年）には 1.80^{*2}、平成 62 年（2050 年）には 2.07^{*3}を目標とします。

図表 4-2 将来人口(目標)



資料：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供データ及び人口推計ワークシート

《グラフの見方》

◆コーホート要因法により、以下の3つのケースを表記。

- ① 「社人研推計」は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠したもの。
- ② 「独自推計」は、まず純移動率について、国立社会保障・人口問題研究所の推計をベースに「0～4歳」～「70～74歳」について2015年～2020年は純移動率のマイナス分を半減に、2020年以降はマイナス分を0として算出し、さらに、合計特殊出生率について、2010年の1.38^{*1}から、2030年までに1.80^{*2}、2050年までに2.07^{*3}に高まるように設定したもの。
- ③ 「独自推計（補正）」は、2015年国勢調査の速報値が公表されたため、上記の独自推計の2015年人口を同速報値に補正したもの。

注 ※1：合計特殊出生率の2010年値1.38について

合計特殊出生率を市町村単位で算出する場合、年によって変動幅が大きくなる。その影響を回避するため、国（内閣官房）が提供する人口推計ワークシートでは、5年間の平均値を採用して人口推計に用いている。2010年値は2006年～2010年の平均値である。そのため、図表1-23（21頁）の平成22年（2010年）値とは合致していない。

※2：希望出生率1.80（47頁注釈参照）

※3：人口置換水準2.07（47頁注釈参照）

■合計特殊出生率

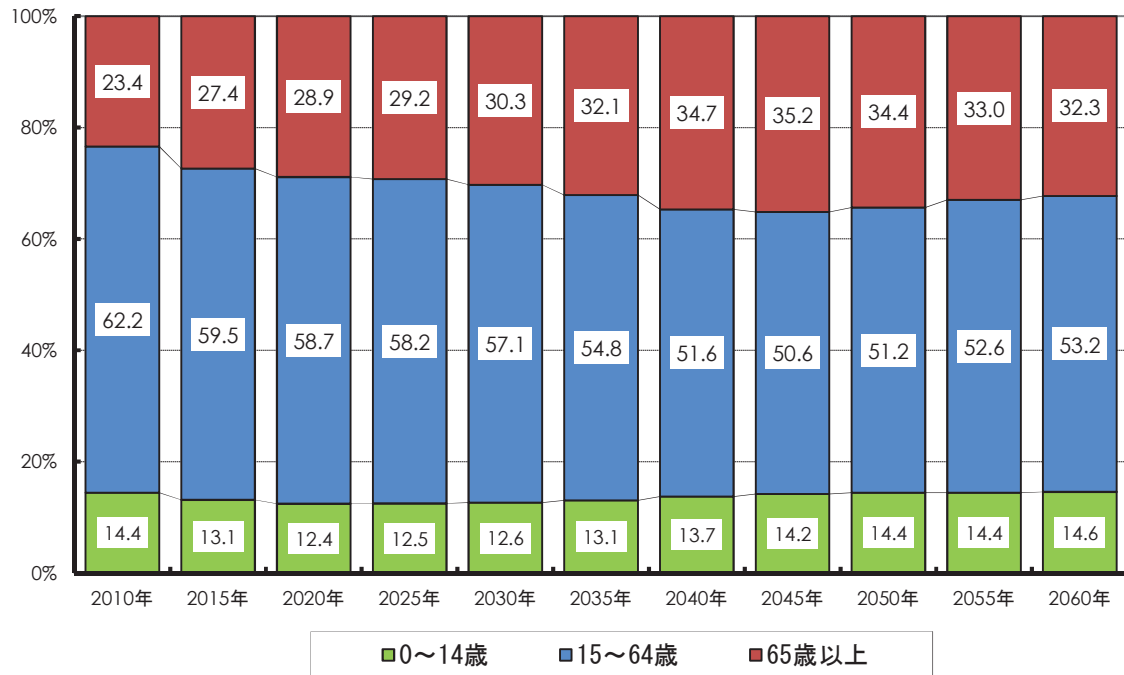
年	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
社人研推計		1.3849	1.3542	1.3289	1.3310	1.3341	1.3347	1.3347	1.3347	1.3347	1.3347
独自推計	1.3800	1.4850	1.5900	1.6950	1.8000	1.8675	1.9350	2.0025	2.0700	2.0700	2.0700

■シミュレーション結果

年	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
社人研推計	65,258	64,275	62,743	60,657	58,239	55,636	52,966	50,187	47,276	44,154	40,920
独自推計	65,258	64,458	63,500	62,304	60,913	59,465	58,075	56,669	55,201	53,541	51,852
独自推計 （補正）	65,258	63,471	62,530	61,356	59,988	58,565	57,199	55,817	54,375	52,743	51,082

図表 4 - 3 独自推計

独自推計2	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	9,411	8,465	7,904	7,801	7,699	7,773	7,975	8,057	7,971	7,728	7,551
15～64歳	40,569	38,360	37,248	36,284	34,767	32,583	29,946	28,688	28,267	28,138	27,562
65歳以上	15,278	17,633	18,348	18,219	18,447	19,109	20,154	19,924	18,963	17,675	16,739
計	65,258	64,458	63,500	62,304	60,913	59,465	58,075	56,669	55,201	53,541	51,852



図表 4 - 4 独自推計 (補正)

独自推計 (補正)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	9,411	8,335	7,785	7,686	7,588	7,662	7,860	7,941	7,857	7,617	7,443
15～64歳	40,569	37,771	36,676	35,728	34,233	32,085	29,492	28,255	27,843	27,720	27,154
65歳以上	15,278	17,365	18,069	17,942	18,167	18,818	19,847	19,621	18,675	17,406	16,485
計	65,258	63,471	62,530	61,356	59,988	58,565	57,199	55,817	54,375	52,743	51,082

※年齢3階級別人口構成比は図表 4 - 3 に同じ。